

1) *2 について

任意の時刻 t における質点の座標を $r(x,y,z)$, 速度を $v(v_x,v_y,v_z)$, 運動量を $P (P_x,P_y,P_z)$, そして角運動量を $L (L_x,L_y,L_z)$ とすと, ベクトルの外積を求めると,

$$\begin{aligned} \mathbf{L} &= \mathbf{r} \times \mathbf{P} = \mathbf{r} \times m\mathbf{v} = (x, y, z) \times (mv_x, mv_y, mv_z) \\ &= (y \cdot mv_z - z \cdot mv_y, z \cdot mv_x - x \cdot mv_z, x \cdot mv_y - y \cdot mv_x) = (L_x, L_y, L_z) \end{aligned}$$

と求まる。

2) *3 について

式 12-2 において, 質点 m_i に関する式の両辺に, 位置ベクトル \mathbf{r}_i を外積を作るように掛けてからすべての $i(i=1\sim n)$ について加え合わせると, 次式を得る。

$$\begin{aligned} \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}_i \times m_i \frac{d^2 \mathbf{r}_i}{dt^2}) &= \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) \\ &\quad + \mathbf{r}_1 \times \mathbf{F}_{12} + \mathbf{r}_1 \times \mathbf{F}_{13} + \mathbf{r}_1 \times \mathbf{F}_{14} + \dots + \mathbf{r}_1 \times \mathbf{F}_{1n} \\ &\quad + \mathbf{r}_2 \times \mathbf{F}_{21} \quad \quad \quad + \mathbf{r}_2 \times \mathbf{F}_{23} + \mathbf{r}_2 \times \mathbf{F}_{24} + \dots + \mathbf{r}_2 \times \mathbf{F}_{2n} \\ &\quad + \mathbf{r}_3 \times \mathbf{F}_{31} + \mathbf{r}_3 \times \mathbf{F}_{32} \quad \quad \quad + \mathbf{r}_3 \times \mathbf{F}_{34} + \dots + \mathbf{r}_3 \times \mathbf{F}_{3n} \\ &\quad \dots \dots \dots \\ &\quad \dots \dots \dots \\ &\quad + \mathbf{r}_n \times \mathbf{F}_{n1} + \mathbf{r}_n \times \mathbf{F}_{n2} + \mathbf{r}_n \times \mathbf{F}_{n3} + \dots + \mathbf{r}_n \times \mathbf{F}_{n(n-1)} \end{aligned} \quad \textcircled{1}$$

となる。

作用・反作用の法則より, $\mathbf{F}_{ji} = -\mathbf{F}_{ij}$ が成り立つので, 右辺に現れる内力 \mathbf{F}_{ij} (ただし $j \neq i$) に関する項の和は,

$$\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_{ij} + \mathbf{r}_j \times \mathbf{F}_{ji} = (\mathbf{r}_j - \mathbf{r}_i) \times \mathbf{F}_{ji} \quad (j \neq i) \quad \textcircled{2}$$

となる。ここで, ベクトル $\mathbf{r}_j - \mathbf{r}_i$ と \mathbf{F}_{ji} は平行であるから, これらの外積はゼロとなり,

$$\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_{ji} + \mathbf{r}_j \times \mathbf{F}_{ij} = 0 \quad (j \neq i) \quad \textcircled{3}$$

となる。

以上より, 式①の右辺の内力に関する項はすべて消去され, 式 12-25 に示される次式が成り立つ。

$$\sum_{i=1}^n (\mathbf{r}_i \times m_i \frac{d^2 \mathbf{r}_i}{dt^2}) = \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}_i \times \mathbf{F}_i) \quad \textcircled{4} \quad (12-25)$$

3) *4 について

任意の固定点 O まわりの全角運動量の式は, 式 12-28 より

$$\mathbf{L} = \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}_i \times m_i \mathbf{v}_i) \quad \textcircled{1}$$

と表される。

質点系内の質点 $m_i (i=1\sim n)$ に関して, 点 O を始点とする位置ベクトルを \mathbf{r}_i , 重心 G を始点とする位置ベクトルを \mathbf{r}'_i , 点 O を始点とする重心の位置ベクトルを \mathbf{r}_G とすると, $\mathbf{r}_i = \mathbf{r}_G + \mathbf{r}'_i$ が成り立つ。同様に, 速度についても, $\mathbf{v}_i = \mathbf{v}_G + \mathbf{v}'_i$ が成り立つ。これらを用いて, 式①を書き直すと,

$$\begin{aligned} \mathbf{L} &= \sum_{i=1}^n \{ (\mathbf{r}_G + \mathbf{r}'_i) \times m_i (\mathbf{v}_G + \mathbf{v}'_i) \} \\ &= \mathbf{r}_G \times M\mathbf{v}_G + \mathbf{r}_G \times (\sum_{i=1}^n m_i \mathbf{v}'_i) + (\sum_{i=1}^n m_i \mathbf{r}'_i) \times \mathbf{v}_G + (\sum_{i=1}^n \mathbf{r}'_i \times m_i \mathbf{v}'_i) \end{aligned} \quad \textcircled{2}$$

となる。ただし, $M = \sum_{i=1}^n m_i$ である。また, 位置ベクトル \mathbf{r}'_i で表した重心 \mathbf{r}_G はゼロであるので,

$\sum_{i=1}^n m_i \mathbf{r}'_i = 0$, $\sum_{i=1}^n m_i \mathbf{v}'_i = 0$ が成り立つ。これを用いると、式②の全角運動量 \mathbf{L} は、

$$\mathbf{L} = \mathbf{r}_G \times M \mathbf{v}_G + \mathbf{L}_G \quad (3)$$

となる。これを時間微分し、式 12-6 に示す $M \frac{d^2 \mathbf{r}_G}{dt^2} = \sum_{i=1}^n \mathbf{F}_i$ を用いると、

$$\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \mathbf{r}_G \times \sum_{i=1}^n \mathbf{F}_i + \frac{d\mathbf{L}_G}{dt} \quad (4)$$

と求まる。

次に、式 12-27 に示す $\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \mathbf{N}$ の右辺の合モーメントについて考える。

$$\mathbf{N} = \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}_G + \mathbf{r}'_i) \times \mathbf{F}_i = \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}_G \times \mathbf{F}_i) + \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}'_i \times \mathbf{F}_i) = \mathbf{r}_G \times \sum_{i=1}^n \mathbf{F}_i + \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}'_i \times \mathbf{F}_i) \quad (5)$$

となる。ここで、全外力の重心 G まわりの合モーメント \mathbf{N}_G

$$\mathbf{N}_G = \sum_{i=1}^n (\mathbf{r}'_i \times \mathbf{F}_i) \quad (6)$$

を用いると、

$$\mathbf{N} = \mathbf{r}_G \times \sum_{i=1}^n \mathbf{F}_i + \mathbf{N}_G \quad (7)$$

となる。

式 12-27 に示す $\frac{d\mathbf{L}}{dt} = \mathbf{N}$ に、式④と式⑦を代入すると、式 12-29 に示す

$$\frac{d\mathbf{L}_G}{dt} = \mathbf{N}_G \quad (8) \quad (12-29)$$

が求まる。

4) *5 について

・並列の場合

k_1 , k_2 それぞれの伸びは等しいので、これを δ とする。また、各ばねに発生する復元力を、 f_1 , f_2 とすると、フックの法則から、次式が成り立つ。

$$f_1 = k_1 \cdot \delta, \quad f_2 = k_2 \cdot \delta$$

復元力に関しては、 $f = f_1 + f_2$ であるので、 $f = f_1 + f_2 = k_1 \cdot \delta + k_2 \cdot \delta = (k_1 + k_2) \delta$ となり、合成後のばね定数は、

$$k = k_1 + k_2$$

となる。

・直列の場合

k_1 , k_2 それぞれの伸びを δ_1 , δ_2 とする。また、各ばねに発生する復元力は等しいので、これを f とするとフックの法則から、次式が成り立つ。

$$f = k_1 \cdot \delta_1, \quad f = k_2 \cdot \delta_2$$

合成後のばねの伸びを δ とすると、 $\delta = \delta_1 + \delta_2$ である。また、フックの法則から、

$$f = k \cdot \delta = k \cdot (\delta_1 + \delta_2) = k \cdot (1/k_1 + 1/k_2) \cdot f$$

であるので、 $k \cdot (1/k_1 + 1/k_2) = 1$ となり、合成後のばね定数は、

$$1/k = 1/k_1 + 1/k_2, \quad \text{つまり} \quad k = \frac{k_1 k_2}{k_1 + k_2}$$

となる。